

岩国市地域づくり協働推進計画検討会 議事要旨

1 第1回検討会

■開催日時 令和5年8月24日 14:00~15:30

■場 所 市役所6階全員協議会室

■出席者 参加者9人、市事務局

■内 容 ○計画策定のスケジュールについて
○岩国市地域づくり協働推進計画案について
○市民アンケートについて

■主な意見等（⇒は事務局発言）

- ・計画期間は令和6年度から10年度の5年間だが、平成28年度に策定された「協働のまちづくり促進計画」の計画期間は示されているのか。
⇒平成28年度から平成34年度（令和4年度）までの計画期間としている。今回の計画は、コロナの影響で不透明な面があったため、総合計画から1年遅れた令和6年度の開始としている。
- ・平成28年度の「協働のまちづくり促進計画」と今回の「地域づくり協働推進計画」とタイトルが変わっているが大きな違いは。
⇒前計画は、市民活動がウエイトを占め、また、協働の理念として抽象的な面も多くあったが、今回の計画策定は、人口減少が進む中で地域の部分も重視しながら進めていくこととしている。
- ・市民活動団体が増えているが、どのような団体が増えたのか。
⇒地域イベント等の地域振興を重視した活動が増えている。
- ・行政がどのような活動を必要としているのか調べるべきではないか。
⇒行政も様々な問題を抱えているので、そうした研究をしていく必要はある。
- ・社会福祉協議会も地域の担い手の育成やボランティア団体の育成を行っている。市民活動支援センターの位置付けに近いと思う。
- ・最近のフードバンクの事業が素晴らしく、企業等も動かして取り組んでいる。コーディネーター役の方が人を動かしたり、お金を使う仕組みを考えてもらえたら我々も動き易い。
- ・岩国独特の基地のあるまちとして特色を生かすという意味では、人口構成のグラフの中で米軍関係者の人口があってもよいのでは。
⇒協働のまちづくりを推進していく上で基地関係者との交流、関係性の構築は重要なテーマと考えているが、その人口について詳細は不明であるため、基礎資料として入れることは難しい。

2 第2回検討会

■開催日時 令和5年11月22日 13:30~15:00

■場 所 市役所2階特別会議室

■出席者 参加者8人、市事務局

■内 容 岩国市地域づくり協働推進計画案について

■主な意見等（⇒は事務局発言）

- ・人口が減少していく中、中山間地域においては地域を支える人づくりが急務であり、計画案にある女性、子育て世代などを含め、様々な世代の担い手の発掘・育成は非常に大事である。

- ・自治会加入率の減少に関する課題解決が重要である。地域の方々の支えがあってこそ安心安全なまちづくりができる。これらも含め検討いただきたい。
- ・自治会加入のチラシはどのように活用されるのか。自治会に入っていない人への働きかけはあるのか。
- ⇒加入促進のチラシは市民課の窓口での配布や、マンション・アパートの住民用として宅建協会へ配布している。自治会に入っていない住民への直接の働きかけについては、市は行っていない。
- ・自治会による未加入者への調査は必要だと思う。市も何度かリーフレットを作っているが、なかなか成果は出ていないのが現状。マンション等には管理組合があり、そこへの配布や調査をどうするか検討が必要。
- ⇒計画案にもあるが、呼びかけの手順など記載した自治会加入促進マニュアルを改訂し、自治会連合会を通じて周知したい。
- ・アパート等の住民は一時的な居住だから加入しないという考え方も多い。地域のイベントなど、住民へのメリットが掲載できたら効果があると思う。
- ・イベントには若いご家族も多く参加している。自治会活動が面白いことだと気付いてもらい、きっかけ作りができれば良いのではないかと。
- ・活動が活発な地域をモデルとして、見習ってもらったらよい。
- ・この計画は行政が中心となって作成しているものであるが、重要な部分は、計画案の基本目標、基本方針で今後どう施策を進めたら良いかが課題。過疎化が進んでいけば人材育成もできないので、まずは人を呼び込まなければいけない。その施策をどうするか、自治会のことに関しても誰もが参画しやすいように、また、若者をどのように取り込んでいくか計画に反映していただきたい。

3 第3回検討会

■開催日時 令和6年1月22日 13:30～15:00

■場 所 市役所6階全員協議会室

■出席者 参加者10人、市事務局

■内 容 岩国市地域づくり協働推進計画案について

■主な意見等（⇒は事務局発言）

- ・コミュニティビジネスを展開する団体について、はNPO法人以外に適した法人格はあるのか。
- ⇒公益的な活動と収益事業を行う一般社団法人も適しているのではないかと。
- ・自治会の加入率について、新規加入者数の達成度合いによって自治会に対して補助金を支給するのはどうか。
- ・計画案の「魅力ある自治会活動をPRする」ことが参加したくなる自治会につながるようになる。
- ・魅力ある自治会活動もイベントをするだけではなく、地域づくりは色々な仕掛けを作らなければならない。自治会加入率を上げていかなければ地域全体でのコミュニケーションも含め良くならない。
- ・自治会長をした際、地域をどのようにまとめていくか考え、消防訓練、救急救命の講習会を行

った。高齢者の割合が高いので、子ども食堂、高齢者の安否確認も含め、定期的にみんなが集まれるようなイベントや自治会館を利用した居場所づくりも考えたい。

- ・自治会に加入する住民が考えるメリットが大事であり、防災意識が高まっている中、加入したら防災グッズが配布されるというのはどうか。今のうちに防災意識を共有し、災害時の情報を伝えるなど、メリットがあれば地域の人と助け合いのコミュニティも生まれる。自治会に加入して、地域の人が避難する場所や人とつながる大切さを知ってほしい。
- ・活発な地域の活動をアイキャンなどで紹介したり、毎年1回市長賞など励みになる表彰をしてはどうか。
- ・子どもからの、地域を元気にしたいといった発信で行事を地域共同で行うことになった。子どもが動いたら大人も動くということを実感している。
- ・法改正で社会福祉法人も地域で公益的な取組を行うことになった。「幅広い人材活用」の箇所、社会福祉法人も社会貢献活動により地域に還元することを触れてほしい。
- ・市民アンケートでは、市民活動の参加について年配の方ほど関心もあり、参加もしていることが分かる。一方、若い世代が参加しづらい、仕事や家事に忙しい現役世代は関心が低くなっている。それでは自治会活動も盛り上がらないという結果が出ている。事務局は、意見のあった「子どもが動けば大人も動く」や「防災意識」など、参加したくなる自治会活動、市民活動と捉えていただきたい。
- ・私の地域では、婦人会と自治会のつながりも良く、防災や交通安全教室を通じて三世代交流ができています。地域づくりワークショップも続けることに意義があり、細々とでも続けていくことが大事。
- ・市民活動支援センターを活かして、講座などで自治会活動の先進地での取組を扱ってもらうのはどうか。
⇒市民活動支援センターがどう関わるか未定だが、先進的な取り組みは紹介していきたい。
- ・自治会の困りごとを共有する場と市民活動の団体とをマッチングする場があると良いのでは。
⇒来年度、市民活動支援センターでは様々な立場の人と課題を共有できる円卓会議を計画しており、自治会と市民活動団体のマッチングも期待できる。また、現在も地域おこし協力隊と地域での課題を共有し、市民活動団体とマッチングの講座を開催している。
- ・地域づくりは他の地域から人を呼び込む方法、移り住んでくるような地域を目指すのが良い。情報発信の見た目もあるが、住民が明るく楽しく、面白く過ごしていられたい。市報の1ページに自治会活動や地域活動を取り入れたら良いのでは。

4 第4回検討会

■開催日時 令和6年6月13日 10:00~10:45

■場所 市役所5階 51・52会議室

■出席者 参加者8人、市事務局

■内容 岩国市地域づくり協働推進計画案について

■主な意見等（⇒は事務局発言）

- ・自治会の会員が減少しており、いずれ活動に支障が出ると危惧している。各地域でイベントも実施しており、活性化していくことが必要。加入率を上げるため対策を考えていきたい
- ・中山間地域は人口が急速に減少し、限界となっている集落もある。清流線の存続は大きな課題である。地域おこし協力隊に地域を盛り上げてもらっているが、隊員の方からは自然環境が素晴らしいとも言われている。厳しい状況であるが、皆様のお力を借りながら努力したい。
- ・大規模店の進出や商工系の後継者がおらず、地元の産業は壊滅状況にある。地域イベントの規

模縮小も考えなければいけない状況。市職員や事業者にも協力いただいているが、ボランティア不足となっており、中高生の参加を促し社会貢献をしてもらいたい。学校がなくなると地域が寂れるし、地域の子どもの歴史や伝統を知ってもらいたい。また、自治会のリーダー育成を進めてほしい。

- ・ 地域のイベントを実施する際には、市が主導して動くことも必要では。
⇒今後の参考としたい。
- ・ 地域の様々な団体が集まり、連携できる仕組みづくりが必要。
- ・ 地区社協は、フットワークが軽く、自治会と違った活動もできる。市内には設置されていない地域もあるので設立に努力したい。
- ・ 学生を地域に出して連携していくことが必要。人材育成事業の申請をしているところだが、ローカル線の存続についても取り組みたい。子育てについての教育機関として、市や商工会議所など連携をとっていきたい。
- ・ 学校と地域連携を進めていくことで、子どもに自治会の役割を知ってもらいたい。
- ・ 全国の住みやすさランキング 200 位以内に岩国市は入っていないが、県内の自治体は5、6市入っている。岩国市の良いところをもっと情報発信してほしい。
- ・ 地域の魅力について、自分たちでは気付いていないこともある。外部から人に入ってもらえると新しい発見がある。
- ・ 本日いただいた御意見は、事務局において整理していただき、最終的な計画策定の参考にしていただく。